

広告会社でのインターンシップ体験レポート

実習の内容

実習期間外に、プロジェクトに向けてのワークショップに参加しました。実習が開始されると、プロジェクトを促進するためのキャッチコピーを考えることや、ワークショップの報告書の作成、打ち合わせにも同席しました。SNSを利用したプロジェクトでは、より多くのユーザーにFacebook上で情報を共有するためのリサーチ業務を行いました。その他に、新たに行われるプロジェクトの会議にアシスタントとして同席しました。

実習で学んだこと

インターンをする目標は2つありました。1つ目は、社会に出てから、自ら問題を発見し解決できる人になるため、頭をフル回転させ、場の雰囲気を受容すること。2つ目は人と人とのつながりを大切にすることでした。

インターンで業務を体験することで、なんとなくでも仕事をするというのはどういうものか感じ、社会人のモノの考え方や、社風などを学びとることが出来ました。意見交換をするディスカッションに参加し、ブレインストーミング法、KJ法を学んだことも有益でした。問題解決の道筋を明らかにするツールとして活用法を学び、また、ビジネスの場を直に感じる事が出来たことは大きな成果となっています。アシスタントとして打ち合わせを入ることで、大学の座学では見えない、企画のリアルな内容が見えてきました。例えば打ち合わせでは、クライアントが何を求めているのか、それをどう引き出すか、予算も念頭にどこで折り合いをつけるか、そしてクライアントとどう歩調を合わせゴールに向かっていくか、などといった普段では知ることのできない内容が飛び交いました。その際に見たことや聞いたことは非常に刺激的で興味深い内容でした。広告会社の業務の根幹である、クライアントの考えを受け取り社内のチームでまとめてうまく伝える。この仕事は、企業と生活者とを「つなぐ」ためのコミュニケーションが特に重要だと感じました。

実習を終えて

今回の経験は自分の凝り固まったものの考え方を大きく変化させました。インターン中は頭をフル回転させ、時間を無駄にせずどんなことにも目を向けて、ひたすら吸収することを心がけていました。キャッチコピーを考えた時には、いいフレーズが浮かばず、今まで自分が考えるということをどれほどしていなかったのかを痛感しました。

インターンで気づいたことは、人と人との繋がりがとても重要だということです。仕事上の付き合いのためだけに、社内や社外の方とのつながりを大切にすることはありません。個々人の仕事に対する熱意だけではなく、誰かとつながることや誰かと誰かをつなげることを心から大切にされる方々ばかりでした。

反省点としては、自分の考えや思いをもっと伝えることができたかなという思いがあります。そうできなかった原因は、自分の中の考えが曖昧で、整理が出来ていないことにあると思います。相手から多くを引き出すためには、豊かな知識だけではなく、しっかりと自分の考えも必要でした。今回のインターンで得た反省点は、そのまま今後の課題になります。残りの学生生活や就職活動で存分に生かしていきたいと思っています。

2週間という期間で、広告会社の仕事の全体を掴めたとはいえません。しかし、とにかく高いコミュニケーション能力が必要不可欠だと感じました。ここで働く方々は、この仕事が大好きであること。そして人を大切にすることを心を持った方の集まりだということが分かりました。

2014年9月

メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科3年 稲葉千晴